

# 会議記録(概要)

会議名	令和7年度第2回三田市生涯学習審議会
日時	令和8年1月20日(火) 13時00分から14時45分
場所	三田市役所 2号庁舎3階2301会議室
出席者	別惣会長、飯野副会長、梶委員、尾上委員、門垣委員、梶谷委員、民岡委員、高畑委員
欠席者	馬込副会長
事務局等	(市民生活部) 横溝部長、榎本次長 (文化スポーツ課) 畑課長、西副課長、小仲主任
添付資料	次第、資料1～6
傍聴者	なし

## 会議概要

### 1 開会

#### (1) 市民生活部長あいさつ

- ・前回の第1回審議会では幅広いご意見をいただき感謝している。
- ・本日の会議では、補助金についての審議並びに、協議テーマ『生涯学習施設を拠点とした人づくり・つながりづくり・地域づくりについて』を更に議論を深めていただきたい。

### 2 確認事項(資料2)

#### (1) 会議の成立について

- ・会議の成立報告

#### (2) 会議の公開について

- ・傍聴報告：傍聴者なし

### 3 報告事項

#### (1) 阪神北地区社会教育委員協議会・各種研究大会等の活動報告と今後の予定について 事務局(資料3のとおり説明)

委員 兵庫県社会教育研究大会の分科会にて、三田市からは有馬富士自然学習センターのジュニアスタッフ育成について発表されていたが、現コミュニケーターの方がこどもの頃に有馬富士自然学習センターで学び、大人になってコミュニケーターとして戻ってきた経緯について、質問が集中していた。伊丹市の社会教育担当の方からの報告として、持続可能なイベントをいつも仕掛けていき、地域総がかりで老若男女を問わずイベントを起こしていけば広がりができるというのが印象に残っている。

### 4 協議事項

#### (1) 令和8年度社会教育関係団体補助金案に対する意見について

事務局 (資料4-1、4-2のとおり説明)

委員 三田市の団体は4団体のみか。

事務局 社会教育関係団体と位置付けている団体への補助金は4団体である。市民活動、地域の団体、さまざまな活動をしている団体には別途補助金を交付している。

委員 三田市子ども会連絡協議会は令和8年度の予算措置をしていないが解散予

- 定だからか。また、別の団体で、令和6、7年度において団体事業費の予算がないのに令和8年度の予算措置をしているのはなぜか。
- 事務局 三田市子ども会連絡協議会は会員確保が厳しい状況であり、解散予定と聞いているため、令和8年度は予算措置をしていない。また、別の団体については、事業自体は継続しているため、支援できる体制を維持できるように予算措置をしている。
- 委員 議題とは離れるが、「生涯学習の理念」としては、教育基本法の第三条に「国民一人一人が、自己の人格を磨き、豊かな人生を送ることができるよう、その生涯にわたって、あらゆる機会に、あらゆる場所において学習することができ、その成果を適切に生かすことのできる社会の実現が図られなければならない。」とあり、行政は支援しなければいけないし、周りのコミュニティも関心を示さないといけない。ただ限度があるため、ある程度、合理的に対応する必要もある。2年間、委員をやるうえでは、何かの機会に見直しの機会を設けてはどうかと考える。今までのままでよいというものではない。少子高齢化への対応と移住促進のためにも、就学前のこどもに対する教育も大切である。これらの従来4団体以外にも、対象となるような活動団体があると思う。本件の個別の事項については特に異論はないが、今後、本来の社会教育の対象とは何なのかを考えていくべきである。少子高齢化の課題に対して、社会教育の観点からフォーカスを当てて取り組んでいくことが大切だと考える。
- 事務局 社会教育関係団体の補助金については、過去、生涯学習審議会において補助金のあり方について答申をいただいているところである。現在、整理はできていないが、更なる検討を進めていかなければならないと考えている。
- 委員 三田市を本拠地とする新しい活動団体もあり、社会教育関係団体については、これまでの団体にこだわらず見直す必要があると考える。
- 会長 それでは意見としては、「団体の活動趣旨や事業内容等を踏まえ適切なものと認められる。なお、4団体に限らず、社会教育に資する他の活動団体も視野に入れた支援のあり方について今後、検討が必要である」とします。

(2) 令和8年度阪神北地区社会教育委員協議会の事業計画・予算案について

- 事務局 (資料5の通り説明)
- 委員 令和9年2月開催予定の第2回研修会のテーマについては、令和9年1月の第3回理事会で取りまとめるのか。それに関して委員が関わることはあるのか。
- 事務局 令和9年2月開催予定の第2回研修会のテーマについては、令和9年1月の第3回理事会で取りまとめる予定になっているが、令和8年8月の第2回理事会でも検討する予定である。委員の意見を伺いながら、会長と事務局が中心となって取りまとめる予定である。
- 会長 予算の方向性についてこれでよろしいでしょうか。(異議なし)

(3) 協議テーマ『生涯学習施設を拠点とした人づくり・つながりづくり・地域づくりについて』意見交換

- 事務局 (資料6-1、6-2のとおり説明)
- 会長 協議テーマについて、このテーマで引き続き議論を進めることでよろしいか(異議なし)。それではこのテーマで引き続き意見交換を進める。
- 委員 有馬富士共生センターはどのような位置付けになるのか。
- 事務局 生涯学習施設ではなく市民センターの一つである。

- 委員 有馬富士共生センターは音楽の発表会、独奏会などに利用するのにはとても良い場所である。そのような場所が生涯学習施設から抜けてしまっている。うまくPRすれば利用者も増えると思う。
- 事務局 各市民センターは地域の防災拠点の位置付けであり、所長など人員を配置している。
- 委員 市民センターの中には視聴覚室など良い設備がある部屋もあり、PRすれば、利用者も増えると考え。テーマとしては良いが、8施設に限定せず、もっと広く考えてもよい。
- 事務局 前提として、市民センターはエリアごとの生涯学習の拠点となっている。さらに、それに加えてテーマ別に特色のある生涯学習施設を設けていることを理解していただきたい。
- 委員 リストにあがっている各生涯学習施設からはどのような意見があがっているのかを教えてください。
- 事務局 指定管理のモニタリングを年2回実施している。有馬富士自然学習センターの例では、利用者はこどもが中心となっているが、公園自体を見渡すとファミリー層、高齢者もウォーキングしており、もっと多世代交流ができないかが課題となっている。ガラス工芸館に関しては専門的な施設であり、こども、特に小学生には夏休みなどにイベントを開催して積極的にアプローチしているが、他の世代には場所的な制約もありできていない。
- 委員 8施設だけでもすごく多様性があり、ステークホルダーが複雑である。行政側、委託されている側、利用者側、それぞれの利用方法によって、さまざまなニーズを色々と聞いて何がベストなのかを探るのがよい。丹波市では、課題研究の場において市と県がある程度のお金を出して高校にコーディネーターを派遣している。地域で色々な知識を持っている人と高校生が結びつき、高校生の中には刺激されて地域で生きる知識や意思を持っている人もいる。まちづくりに繋がっていく。ステークホルダーの意見を聞いて住民にとって何がベストなのか、何がベターなのかを考えるのがよい。そのためには色々なご意見をまず聞くことである。
- 委員 YMC Aのキャンプ場では、プロのスタッフは1名だけで、他は学生などのボランティアで運営している。ボランティアの世代的な循環がなされている。衰退していく団体にはプロのスタッフがない。ボランティアだけの団体ではメンバーが固定化され、新しいものが導入されず単調になり高齢化して衰退していく。プロが支えていく仕組みが必要である。
- 委員 生涯教育の活動に精通した人材を市民センターの所長にするなど、大胆な発想が必要である。音楽関係、園芸関係、木工関係など、三田市内には有能な社会教育人材がいる可能性が高い。また、各施設でどのような活動をしているのか、ホームページを随時更新し、情報発信をしっかりとしていく必要がある。
- 委員 ふるさと学習館では、二次元コードを施設に掲示し、文化財の話が効ける仕組みをつくり、こどもたちの興味をひくアイデア、心道会館では三田警察署の職員が技を磨く練習をすることがあると聞いた。ハードルを下げて、こどもたちに興味を持ってもらえる、見てもらえる機会をつくることに関心をもってもらうきっかけになる。
- 委員 有馬富士自然学習センター、三輪明神窯史跡園、ふるさと学習館では、小学校等を訪問し講座をするアウトリーチを行っており、現地に行くことが難しい学校にとってはハードルが下がり利用しやすい。図書館では

- 調べる学習コンクールなどの応募もあり、こども時代に関心をもつきっかけになっている。また、大人、高齢者にも関心をもってもらえるような魅力的なイベントを開催し続ける必要がある。
- 委員 施設ごとの利用者数の増減、年齢層などの情報がほしい。三田市ならではの学習プログラムとして、カリキュラムに8つの施設を取り入れて、広がりをつくるきっかけにしてはどうか。
- 事務局 来客者数は5年ぐらいの推移がわかるように資料を準備したい。どの施設も増加傾向である。有馬富士自然学習センター等ではアウトリーチという学校などを訪問して興味をもってもらう取り組みを行っていたり、図書館ではこども向けにバックヤードツアーという図書館の裏側を知ってもらう取り組みや、紙芝居や読み聞かせのボランティアに参加していただく取り組みを行ったりしている。
- 委員 利用者層については、情報が取れていないのが現状であり、利用者アンケート回答の年齢により把握しようと考えている。
- 委員 アウトリーチの費用を市が補助する仕組みを検討してはどうか（※現在は、指定管理料の範囲内で行っていただいている）。
- 委員 小学生の時に野外活動センターに宿泊してわくわくする体験をしたことを覚えている。三田駅前でスタンプラリーを5か所ほど設けて賞品があたる清掃活動を実施したところ、これまで役員だけの10名ほどの参加者が80名にも増えたことがある。わくわくするような遊び心のある仕掛けも必要である。
- 会長 三田市にはさまざまな活用できる施設がある。その施設をいかに有効に活用してもらうか知恵を絞っていかなければならない。利用していただくには、ボランティアだけでなく中心となって指導していただける人（プロ）もつけて、その人が活躍していただける活動も企画していかなければならない。また、学校などにはアウトリーチというかたちで利用してもらいながら、ステークホルダーの要求にこたえていく。さらには、施設を利用するハードルを下げていく努力もしていく。そのためには各施設の活動状況をホームページで市民に知らせていく。場合によっては、そのニーズに合わせて活動を改善していく取り組みをしなければ、施設が市民から遠のいて行く懸念もある。本日は施設での活動が魅力あるもので持続可能なものを目指して、今後どのように取り組むかを官民両方合わせて考えていかなければならない。次回、教育委員会との意見交換会でさらに話をしていきたい。

## 5 その他

### (1) 教育長・教育委員会との意見交換会について

令和8年3月6日（金）13時00分から 本庁の庁議室にて開催予定

## 6 閉会